はじめに

○ この講座では難関大学の入試で過去に出題された問題をもとに答案を作成し、解説を重ねていきます。

小論文では、大学で学ぶために必要な知識・技能をもっているか、思考力・判断力・表現力があるか、そして学びに向かう力等が備わっているかが評価されます。では、難関大学の学生として相応しい人物像とは一体どういうものか、ここで考えてみることにしましょう。

○ 大学はそもそも研究機関です。

研究とは、世の中でわかっていないこと、答えが割れていることを学問の力で解き明かすことを指します。したがって、受験では研究するための力があるかどうか、もしくは入学後にそうした力を養えるかどうかが問われます。

○ 教科・科目の試験だけでは大学が求めている力が上手に測れません。

理由はシンプルで、大学での教育と高校での教育が上手に接続していないからです。大学で求められる基礎学力と、高校までで培ってきた学力が必ずしも重なり合わないのです。

○ 大学側が求める基礎学力を測るための方法の一つが「小論文」です。

前述の通り、設問を上手に設定すると、「大学で学ぶために必要な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を全て観察することができます。特に、小論文でないと「学びに向かう力」を観ることが難しいということは、これまでの講座でお話ししてきました。

○ トップレベルの講座ではさらなる高みを目指すことにします。

それは「どれだけ深い議論のもと、答案を作成したか」に尽きます。そのための眼差しとして「システム思考」という考え方をお話ししようと思います。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〇 システム思考とは何か

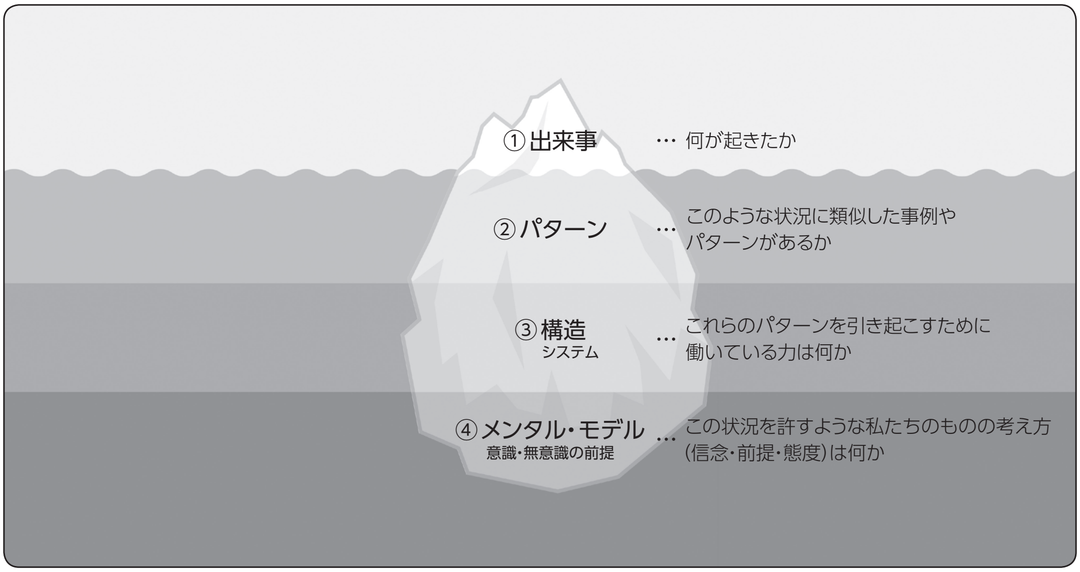
小論文の問題を捉えるときに大事な構えは「問題がなぜ発生するのか」を丁寧に探り、課題となっている事柄を整理することです。複数の課題があって、どれが最も問題解決に近いのかを考えて選び取り、課題を解決するための方法を考え、実行するという流れを汲むことになります。

問題に潜む課題を探るために有効なのが、システム思考というアプローチです。問題が起こる要素は複雑に絡み合っているので、その要素どうしの関係性、たとえば因果関係や相関関係（システム）を明らかにすることから始めます。そして「どの関係を解きほぐせば、問題が解決できそうか」ということを考えます。こうした思考のあり方を「システム思考」といいます。

〇 「見える世界」の水面下に潜む要因とは

ピーター・センゲ氏は著書『学習する学校』において、「氷山の一角」という表現を用い、その水面下にははるかに大きな問題が隠れていることを指摘します。システムの観点から言えば、特定の出来事（氷山の一角）に焦点を絞ることは、その問題がもつ複雑性から目を逸らさせる一因となるというのです。

〇 氷山モデルとシステム思考



「学習する学校」（ピーターセンゲ）を元に以下図を作成、引用 https://souken.shingakunet.com/publication/careerguidance/vol435202012-a346.html

「①出来事」をそのまま受け止めて解決しようとすると、対症療法としては有効でも、その裏側にある問題を見つめているわけではありません。結果として、根本的な解決には至りにくくなります。

課題を取り巻く全容を理解するためには、まずは水面下に潜り込み、「②パターン」を見つけることから始めます。例えば、いま見つめている課題が特有のものだと自分では思っているかもしれませんが、ほかの地域や国で同様の構図で同じ時期に起こっているかもしれません。なお、このように偶然とは思えないかたちで因果関係のない出来事が同時に起こることをシンクロニシティといいます。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○「見えない世界」を可視化する

● 問題や課題がどういうシステムの中で生じているのかを俯瞰する
　そして、同時多発的にその課題が起こるということは、そのパターンを生み出す「③構造(システム) 」が存在するのではないかと推測できます。どういう要素が、どういう力を及ぼし合っているのかを把握します。

● 問題・課題発生の要素どうしの関係を図にする
　とはいえ、問題発生の要素を把握するというのは、実際には難しいことだと思います。事象の発生は複雑で偶然が伴うからです。特に「③構造(システム) 」を捉えるときについ自分が理解できる因果関係のみを捉えて、わかった気になることはよくあるものです。つまり、問題を単純化して捉えやすいということです。そうならないように、図などを用いながら整理してみましょう。そのうえで、どの点が問題を引き起こしていて、どの方策が効果的なのか、実現可能な方策はどれか、どれだけコストがかかるのか (かからないのか)といったことを加味しながら、方策を選択することになります。

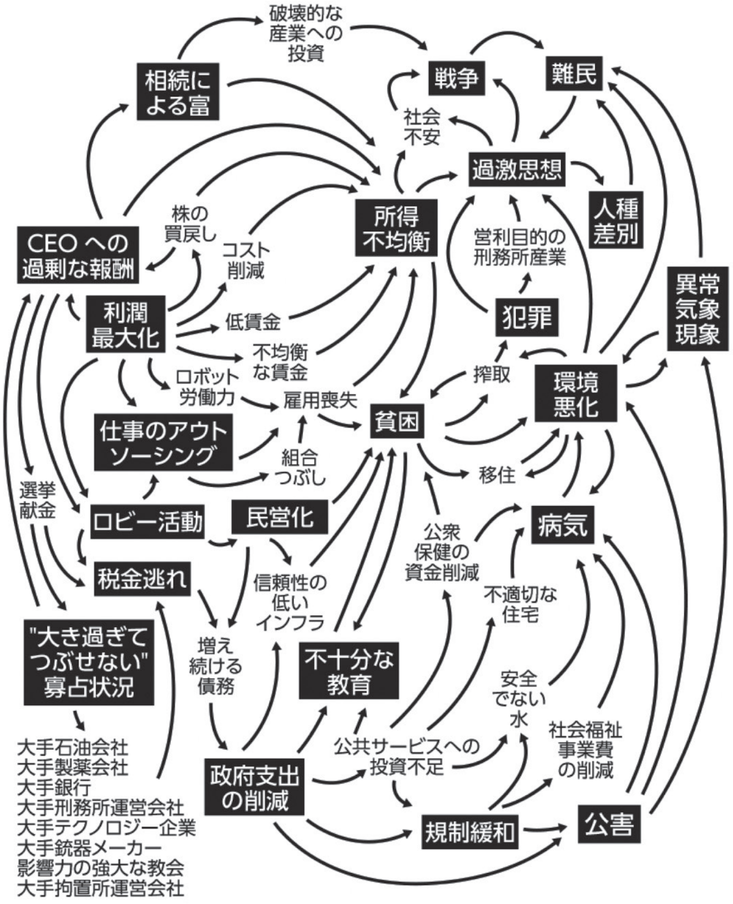
○「見えない世界」を生む信念や態度を見つめる

● どういう価値観でシステムがつくられたのかを見つめる
　一方で「④メンタル・モデル」を見つめます。システムは人がつくり出したものである以上、どういう信念や態度から生み出されたのかということも観察します。そこまで見つめるのは少し難しいかもしれませんが、そういう見方をすると見えてくることもあるので、あえてここで紹介します。

● システムをつくる「思想」に気づく
　おそらく他にも見方があるかと思いますが、私ならどう眺めるかということを述べてみようと思います。
　私は地域ごとに格差が生じていることに注目しますが、この状況をフランスの経済学者であるトマ・ピケティ氏が著した『21世紀の資本』の主張に置き換えてみます。ピケティは経済成長によって資本主義を放置すれば、格差は拡大すると主張します。資本主義のシステムは、おおまかにいうと資本家とそれ以外の人々によって成り立ちます。そして、資本を持つ人は富を蓄積し、資本を増やそうとします。その富を再分配しないことが貧困を生み、社会や経済を不安定にさせるというわけです。つまり、格差の要因は実質的には資本主義の歪みだと捉えることができます。これは、私たちがエゴシステム (邪悪な問題が発生する生態系)に組み込まれているということもできます。以下の図は要素どうしがどういう問題を引き起こしているのかがよくわかるものですので、参考までに掲載します。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

邪悪な諸問題の生態系



©Christian Sarkar and Philip Kotler 2019

（https://www.druckerforum.org/blog/the-ecosystem-of-wicked-problems-by-christian-sarkar/?fbclid=IwAR2HK69dpBIcOpmwW3eCqnoU6d470fqIojkI2dxqVH4aP0EXyeifw4EhcHc をもとに作成し翻訳した）

[原典] Brand Activism: From Purpose to Action by Christian Sarka and Philip Kotler, 2020, Idea Bite Press

経済的自由を重視するのが資本主義であり、それを促進するのは個人の自由だとした場合、リバタリアンに相当する人が台頭することになります。この立ち位置の人は経済的自由があるから貧富の差が出ても許容する、個人の自由があるから他者の自由が対立し、いずれかを排斥するということも許容する、という捉え方をするという見方ができるわけです（実際にはそんなにシンプルに考えて行動する人はあまりいないかもしれませんが、思考実験の一つとして捉えてください）。

そして、資本家は富を蓄積し続けるために、他の人々の個人の自由を制限しようとするでしょう。つまり保守の領域へ移行しがちだと推測できます。

富を持つ人々がどこにいるのか、なぜ人々に再分配されないのか、ということの源流には「経済的自由」「個人の自由」を自己都合で行使しようとする人々の存在、言い換えれば自由権のあり方が問われているということがわかります。我々の周りに横たわる各種問題は、その共同体に生きる人の思想の問題でもあるということです。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○ 小論文の問題を介して、世界をどう変えるか、つくるかを考える

「こういった思想が生まれてきた歴史的文脈とは何だろうか」、「どこを補正すればよいのか」、「もしくはつくりかえる必要があるのか」、「どうやってエゴシステムをエコシステムに変えていけるのか…」といったことを探っていくことになるでしょう。「富の再分配の不全によって起こっているのではないか」、「現行の資本主義システムによって起こっているのではないか」ということも推論できるわけです。そして、その推論が本当に適切なのかどうかを、横たわる問題を丁寧に観察しながら検証する。そして、このシステムをどう変えれば良いのかを考えるわけです。こうした行き来が、探究の対象が抱えている問題や課題を深く捉えることにつながるのだと思います。

○ 現代版リベラルアーツを目指して

いままでの学びのあり方を振り返ると、知識を獲得し、吐き出すことを主に求められてきたのではないでしょうか。しかし、それだけでは新たな発想は生まれません。そもそも世界に横たわる傷は、これまでの知識を運用するだけでは解決しなかったから、今でも残っているのです。知識を得て、そのまま別の事象に当てはめる（演繹）だけでは、我々は囚われの身のままなのです。この講座ではたしかに背景知識を習得することも求めますが、むしろそうした知識をご自身が持つ知識や経験と掛け合わせながら、共通点を見出したり（帰納）、新たな知を仮説として生んだり（アブダクション・リトロダクション）、別の分野の法則性が他の分野にも当てはまるのではないかと推測したりする（アナロジー）ことを期待します。

そのためのヒントになるテーマを20講分用意しました。この講座を通して、現代に横たわる諸問題に囚われる我々を開放し、自由になる術を学んでほしいと願っています。

では、講座で一緒に未来をつくりにいきましょう。私も応援しています。

神﨑 史彦

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ⒸRECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Contents

章	講	テキストページ数	動画 チャプター1	チャプター2	チャプター3	チャプター4	チャプター5
人文科学系	第1講 人文科学系(1) 人文学を学ぶ意味	13P – 32P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第2講 人文科学系(2) 真理と倫理の関係性	33P – 58P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第3講 人文科学系(3) 現代における知識人の意味	59P – 78P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第4講 人文科学系(4) 個について	79P – 96P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第5講 人文科学系(5) 批判的思考	97P – 122P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第6講 人文科学系(6) 正しさについて	123P – 144P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第7講 人文科学系(7) 反知性主義	145P – 170P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
社会科学系	第8講 社会科学系(1) 格差社会	171P – 190P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第9講 社会科学系(2) 戦争と平和	191P – 210P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内
	第10講 社会科学系(3) 平等	211P – 234P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Contents

章	講	テキストページ数	動画					
			チャプター1	チャプター2	チャプター3	チャプター4	チャプター5	チャプター6
社会科学系	第11講 社会科学系(4) 個人と社会の対立	235P-254P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第12講 社会科学系(5) 「安心」社会の意義	255P-276P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第13講 社会科学系(6) 統計の意義と限界	277P-300P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第14講 社会科学系(7) システム思考	301P-340P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
医学・自然科学系	第15講 医学・自然科学系(1) 科学とは何か	341P-360P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第16講 医学・自然科学系(2) 命の選別	361P-380P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第17講 医学・自然科学系(3) 植物状態の患者の看護	381P-400P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第18講 医学・自然科学系(4) 認知症患者の対応	401P-418P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第19講 医学・自然科学系(5) 感染症との共生	419P-436P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	ー
	第20講 医学・自然科学系(6) 人工知能と医療	437P-457P	資料読解	問題およびヒント	答案例①	答案例②	レベルアップのための読書案内	おわりに

巻末資料①　問題文テーマ・キーワード一覧　p459-460

巻末資料②　小論文ルーブリック　p461-463

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本講座の学習の流れ

本講座は、難関大学・医学部の過去の入試問題をもとにテキストを構成し、論述問題のみを抜粋しています。また、全ての問題が課題文・資料付、答案例はスタディサプリオリジナルのものになっています。資料読解をもとにした論述のトレーニングに集中できるように配慮しています。

第1講から第7講は人文科学系、第8講から第14講は社会科学系、第15講から第20講は医学部を主とした医学・自然科学系の小論文演習となっています。なお、大学や問題の難易度で問題の順序を決めているわけではありません。

ご自身が受験する学問領域だけ取り組むという使い方でもかまいませんが、アナロジー（ある問題で取り扱った事柄をもとにして、他の問題で出題された事柄を推し測ること。以前取り扱った問題の構造の類似点に気づき、推論すること）を期待して、全ての問題に取り組むことを勧めます。

テキストにはあなたが考えた内容をまとめる欄がありますので、「授業でこういうテクニックを述べていたけれど、私ならどうするだろう」と思考を巡らせて、頭に浮かんだこと、調べたことを色々と書き記してみてください。それを材料にして他者と対話しながら、小論文を形にすると効果的です。

また、巻末に小論文のルーブリックを掲載しています。これをもとに、あなたの小論文がどの段階にあり、次の段階に進むためには何を修正・補正すればよいのかということを、自分の答案を評価するとき、他者と対話するときに活用してください。

予習

POINT !

- この講座は必ず予習をしてください。
  各講の問題をもとに、答案例を見ずに自力で答案を作成してください。答案が完成したら、ルーブリックを用いて自己評価してみてください。自己評価をするさいに、巻末のルーブリックを参照してください。横軸は評価の観点、縦軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示しています。評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。

↓

受講

POINT !

- チャプターは、以下のパートに分けてつくっています。
  - 資料読解
    該当する講座の資料を読解するさいに押さえてほしいポイントをレクチャーします。
  - 問題およびヒント
    問題を紐解くに当たって必要なヒントを示します。
  - 答案例
    答案例をもとに、よいポイント・修正ポイントを解説します。
  - レベルアップのための読書案内
    取り組んだ問題に関する書籍を紹介します。
    テキストは各講ともに「問題文」「答案欄」「評価表」「答案例」を設けています。答案欄にご自身の答案を書き込んだ後、「資料読解」チャプターを視聴して、内容を理解してください。その後、講義の内容を参考にしながら、ご自身で答案を自己評価をしてみてください。そして「問題およびヒント」を視聴したうえで、ご自身の答案との方向性のズレや合致点を探ってみます。自己評価したあと、どの点を直すと評価が上がるのかを意識しながら再度書き直してみるとよいでしょう。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

受講後／復習

POINT !

- ルーブリックをもとに、次のレベルに到達するにはどういうことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。
- そして「答案例」の解説をもとに、「自分の答案にその内容を取り込むとしたら、どうすればよいのだろうか」などと考えて、自分の答案を修正してみてください。

復習後

POINT !

- 作成した答案やルーブリックでの評価をもとに、学校の先生方などの指導を受けてみてください。そのさい、どういうところが気になるのか、修正しようとしているのか、その理由はなぜか、ということを共有できるように準備しておきましょう。そのうえで、さらに修正を施しましょう。
- 出題した設問についての周辺知識を増やしたり、もっと理解を深めるために「レベルアップのための読書案内」で紹介した書籍を読んでみましょう。文章の難易度は色々ありますが、どれもお勧めの本ですので、ぜひ手に入れてみてください。

入試直前

POINT !

- 作成した答案やテキストにまとめた内容を復習するのはもちろん、「資料読解（チャプター1）」のみ、もしくは「問題およびヒント（チャプター2）」のみを視聴することも効果的です。
- さまざまな知識を一気に獲得したい場合は、「資料読解」を読み通すか、チャプター1を順に視聴してください。
- 答案の作成の流れを振り返る場合は、チャプター2を順に視聴してください。
- よくある答案のミスを確認したい場合は、チャプター3および4を順に視聴してください。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

小論文講座　受講の流れ

ベーシック・ハイ&スタンダード・トップレベルの講座で取り扱うテーマは重複しません。全ての講座を受講すると、関連する知識を多く得られます。また、ハイ&スタンダード・トップレベルの講座は「社会科学（法・政治・社会・経済・経営等）」「人文科学（文・人類・教育等）」「自然科学（理・工等）」「医歯薬看護医療系」と分野を分けていますので、志望する学部に合わせて選べます。

文章の記述や小論文の基礎を学びたい場合、受講推奨	ベーシックレベル 小論文	小論文と作文はどう違うか、という基本的な事項から、原稿用紙の使い方、段落構成、出題形式別の対処法を学びます。また、持っている知識をもとに思考する方法も習得します。600字程度の小論文を書くことができることを目標にしています。
過去問に取り組む前の入試対策を学びたい場合、志望校のレベルに応じて選択	高3 ハイ&スタンダードレベル 小論文	地方国公立大学およびGMARCH・関関同立レベルの大学入試の過去問をもとに、社会科学・人文科学・自然科学・医歯薬看護医療系の頻出テーマの演習および知識習得を目指します。800字程度の小論文を書くことができることを目標にしています。
	高3 トップレベル 小論文	旧帝大および早慶上智・関関同立レベルの大学入試の過去問をもとに、社会科学・人文科学・自然科学・医歯薬看護医療系の頻出テーマの演習および知識習得を目指します。1200字程度の小論文を書くことができることを目標にしています。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第1講

人文科学系(1)
人文学を学ぶ意味

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　プラトンの対話篇で,ソクラテスはくり返し「正しい,美しい,善い」といった大切なことを「知らない」と表明している。これは,ソクラテスの「無知の知」,あるいは「不知の知」(両者は一般に同義に用いられている)と呼ばれ,彼の哲学の核心と見なされてきた。しかも,意味する心は自明であるとして,今日では標語として,改めて吟味されることなく流布している。「不知」というソクラテス哲学の核心を,皮肉にも,これまで私たちは「知っている」と思いこんできたのである。

2　しかも,「無知の知」は,単に通俗的な理解ではなく,多くのギリシア哲学の専門書で堂々と用いられてきた表現である。その御墨付きの下に,哲学史の概説書や一般の解説書,さらには,学校教科書をつうじて標語として流布し,私たち日本人の心に深く浸透してそのソクラテス像を形作ってきた。現代日本では,「無知の知」という偉大な「知」を唯一手に入れた「知者・教育者ソクラテス」が,「聖人」扱いされてきたのである。

3　しかし,この有名な標語は,驚くべきことに,ソクラテスの理解としては完全な誤りである。誤解のなかにはとくに害のない類もあるが,私の信じるところでは,この誤りは哲学の始まりを妨げる大きな害悪である。「無知の知」という言葉は,ソクラテスがくり返した「不知」の自覚とは,およそ正反対に位置すると解釈されるからである。では,これほど有名な標語が,なぜ誤っていると言えるのか。私はここで,文献的な証拠,哲学的な考察,歴史的な経緯という三つの説明を提示したい。

4　文献的には,まず何よりも「無知の知」やそれに相当する

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

表現が，典拠となるプラトン対話篇にまったく現われないことが示される。さらに，この表現は単に用いられないだけでなく，哲学的に不適切な把握として退けられる。プラトン『カルミデス』では，「不知の知」という形のより高次の「知」が，ソクラテス自身によって徹底的に批判されているのである。そして，最後に，この誤解がどう発生し，それがどう日本に受容されたかを，歴史的にたどってみよう。

5　ソクラテス理解の鍵となる彼の「不知」への関わりを，長年の迷妄から救い出し，新たな哲学へと再生させること。それが，今日私たちがソクラテスと共に哲学者となることを意味するはずである。

6　クセノポンが『想い出』で描くソクラテスは，人々を教え導く有益な友人であるが，「知らない」という人間のあり方を表明することはほとんどない。

7　たしかに，敬神に関してソクラテスは，人間の認識を超えた「もっとも大切な事柄」については，神々のみが知っており，人間は神託をつうじて学ばなければならないと明言する(1・1・6—9)。しかし，他の箇所でソクラテスが「知らない」と表明することはなく，むしろ彼は，正しさ，敬虔，思慮といった事柄を知る者こそが立派で善き人であり，知らない者は奴隷に等しいと考えていたとされる(1・1・16)。クセノポンのソクラテスは，プラトンが前面に出す「不知」とは縁遠い知者なのである。

8　対照的に，プラトンの対話篇において「不知」はソクラテス哲学の鍵となる。対話においてソクラテスは，自らは大切な事柄について「知らない」と表明しつつ，対話相手に問い尋ねていく。そのため，ソクラテスは知りながら「空とぼけ（エイローネイア）」しているのではないか，と相手に勘ぐられるほどであった。ソクラテスの厳しさ，皮肉，彼への憎しみは，すべてここに発していると言ってよい。では，ソクラテスは「不知」を一般的にどう捉えているのか。

9　「徳とは何か」を主題とする『メノン』は，初期の多くの対話篇で実践されるソクラテス的探究を，方法論的に反省している。「徳とは何か」の問いに十分な答えを与えることができない対話相手メノンは，行き詰まり（アポリア）に陥った。「知らない」ことを素直に認められない自信家のメノンは，ソフィスト的な「探求不可能論」を提起して開き直る。それに対してソクラテスは，「学ぶことは，想起することである」という想起説を導入して，幾何学を例に，探求の可能性を実演していく。

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

⑩　ソクラテスは，数学の教育を受けていない侍童に「一辺が二プースの正方形の二倍の面積となる正方形の一辺は何プースか？」と尋ね，対話をつうじて侍童が次第に自ら正解を見出していく過程を，メノンに示す。侍童は，最初いくつか誤った答えを与えるが，その誤りに気づいて行き詰まりに陥る。その状態に，ソクラテスはこうコメントする。

⑪　「しかし，先程はこれを知っていると思って，向こう見ずにも知っているものとして答えて，行き詰まっているとは考えていなかった。だが今は，すでに行き詰まりにいると考えており，ちょうど知らないように，知っていると思ってもいないのだ。」（『メノン』84A―B）

⑫　ここで対比されているのは，「知っていると思っている」か「知っていると思っていない」かの二つの認識状態である。前者は自らのあり方を認識しておらず，後者のような「知らない」ことの自覚に至って，初めて探求の可能性が拓(ひら)ける。ここから再開された探求について，ソクラテスはメノンにこう尋ねる。

⑬　「彼が行き詰まりに陥って知らないと考え，そうして知ることを求める以前には，知らないのに知っていると思っていたこの事を，探求したり学んだりしようと試みることがあり得た，と君は思うかね。」（『メノン』84C）

⑭　探求の行き詰まりは，「知らない」という現実を突きつける。「知らないと考える」という自覚された「不知」こそが，哲学探究の基盤となるのである。ここでソクラテスが「知らないと知っている」とは語っていない点に，まず注意しておこう。

⑮　後期対話篇に近く位置づけられる『テアイテトス』の末尾でも，「不知」を自覚する意義が語られる。その対話篇では，「知識とは何か」をめぐってテアイテトスが提出する候補を，ソクラテスは「産婆術」によって吟味していく。

⑯　三つの定義がすべて退けられ，最終的に行き詰まり(アポリア)だけが残った時，ソクラテスはテアイテトスを励ます。彼は，今後，よりよい考えを身ごもることができるようになるか，もし出産するものがない場合でも，「思慮深くも，君が知らないものを，知っていると思うこともない」という点で，より探求に相応しい人となるであろうと(210B―C)。行き詰まりに終わるソクラテス的探究も，こうして「不知」を自覚させる究極の意義を担っていたのである。

⑰　探求がもたらす成果であり，かつ，探求そのものを成り立たせる基盤となるのが，「知らないことを，知らないと思う」ことであった。この「不知」の自覚は，また，生きることそのものに根本的に関わっている。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑱　『弁明』の後半には，ソクラテスが自らの不知を表白する場面がある。哲学する生をやめない代わりに死を迎えるとしても，何も恐れることはない。

⑲　　「死を恐れるのは，知がないのに知があると思っていることなのです。」　（『弁明』29A）

⑳　なぜなら，誰一人「死」が何であるか，それが悪しきことか善きことかを知らないはずであるから。そのような死をあたかも最悪であるのかのように恐れることは，知らないものを知っていると思う，「恥ずべき無知」に他ならない。対照的に，ソクラテス自身はこう表明する。

㉑　　「ハデス(冥府)のことについては十分には知らないので，そのとおり知らないと思ってもいるのです。」　（『弁明』29B）

㉒　この不知の自覚の上に，ソクラテスは裁判で毅然とした態度をとり，死を従容(しょうよう)として迎える。ここでもソクラテスは，自らの状態を，「知らないので，そのとおり知らないと思っている」と捉え，けっして「知らないということを知っている」と語ってはいない。プラトン対話篇における「不知」の自覚は，すべて同様に表現されている。

㉓　ソクラテス哲学の核心を表わし，また，ソクラテス的な探求を総括するこれらの箇所では，一貫して「知らないと思う，考える」という表現が用いられている。「思う，考える」は，「知る」という確固とした認識状態を意味しない。「知る」とは，つねに根拠づけられた真理の把握である。これに対して，「思う，考える」とは，主体がそう見なしているが，真理の保証がない状態である。

㉔　他方で，不知の自覚のない人々は，「知らないのに，知っていると思っている」という「恥ずべき無知」にあった。ソクラテスの持つ不知の自覚と強烈に対比はされるが，両者は「思う，考える」状態にある点では共通する。

㉕　ソクラテスの不知の自覚やそれに相当する認識状態には，プラトン対話篇全体をつうじて，一貫してこのような言い回しが用いられている。つまり，日本で流布している「無知の知」という表現は，そのままの形で対話篇に登場することはなく，さらに，その原型にあたる「知らないということを，知っている」という言い方でさえ，まったく用いられてはいないのである。プラトン対話篇で示されるソクラテスの自己了解のあり方は，「無知の知」とは根本的に異なる把握である。

（納富信留『哲学者の誕生―ソクラテスをめぐる人々』より）

（2014年度　筑波大学　人文・文化学群　人文学類　後期　小論文(1)）

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

著書の見解にふれながら，あなたが人文学を学ぶとはどういうことなのか，論じなさい。(600字以内)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答案をつくってみよう

（　　　字）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価して
みよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見(主張)	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　私が人文学を学ぶこととは、今までの自分が人文学について知っていたつもりのことについてそうではないことを自覚し、そこからどのようにしていけばよいのかを試行錯誤していくことなのだと思う。これは自分自身との対話を行っていく作業でもある。

　本文中で作者はソクラテス哲学の核心とされてきた「無知の知」はソクラテスの教えにはそぐわないものであるとしている。そもそもソクラテスは文献において不知であることを人間の在り方としていない。また、学びは自分がこれまで知っていたつもりであったものについて知らないと考える不知の自覚から始まるとしている。自分が無知であることを真理の保証を伴って「知る」のではなく自覚することから探求は始まるのである。

　自分自身の無知を自覚することはこれまでの自分を疑うことでもあると思う。自分が知っている、わかっているつもりになっているものについて「本当にそれは正しいのだろうか？」と疑いを持つことは簡単なことではない。果たして自分が何について理解できているのか、それともただ知っているつもりになっているだけなのかということについては自分一人だけの力では判別できないのである。だからこそ、自分がそれを知っているはずだというプライドを捨てて外部の知識を受容していく姿勢をとり続けることができれば、それこそが私が人文学を学ぶ意味になっていくのだと思う。

（586字）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　私が人文学を学ぶのは、特定の地域や社会集団に属する人間が、どのような共同意識を持っていたのかを知るためである。そして、その共同意識によって独特の文化や風習を生み出した経緯を調べ、地域に伝わる神事の発端となる出来事を見出すことが目的である。

　筆者はソクラテスの「無知の知」について、日本で受容されている見解は、本来ソクラテスが示した理解としては完全な誤りと述べている。プラトンらの著書でソクラテスの在り方は一貫して「知らないと思う、考える」と表現されていて、「知らないことを知っている」という、常に根拠付けられた真理の把握である「知る」という認識状態であるとは決して語っていない。また、知っていると思っていた事象が行き詰まりに陥り「不知」と自覚することで探求の可能性が拓けるとした。このことから、既に知っていることも、知らないと思い、探求したり学んだりすることが大事だと分かった。

　人文学の分野は確固たる証拠がない事象を研究する場合が多いと思う。特に私が志望する民俗学は、伝承によって発端当初の出来事やその目的が薄れている事柄を調べる必要がある。歴史の教科書で習い「知っている」という認識状態でいることでも、「知っていると思っている」と自覚し、もう一度探求することが大切だ。そして、新しい見解や正しい歴史を見つけて、後世に広めていきたい。

(579字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。